

**I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。**

**a. 特に学術的に重要と考えられるもの**

本学会は術後の合併症や死亡の頻度が高い高難度肝胆膵外科手術を安全に行うことを目指した外科医の学会であり、肝胆膵外科に特化した学会はわが国には他に存在しない。また、本学会の特徴は専門医制度を通じた日本の肝胆膵外科の成績向上への貢献と英文機関紙 Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences (JHBPS) 発刊に見られる高い学術性や国際性である。

その他、毎年プロジェクト研究（国内・国際・NCD）を公募し、代表研究者への研究費の支給を含め支援している。

**b. 当該領域における国際的な役割**

・グローバル化の一環として世界肝胆膵学会議（IHPBA）の協力団体としても活動しており、IHPBA の昨今の World Congress では日本人の出席者数が一番多くなるなど、日本のプレゼンスを誇示している。世界における日本の肝胆膵外科医のプレゼンスを高めている。

・本学会にとって、若手の育成は普遍的かつ重要なテーマである。次世代のリーダーを育成することを目的として、1997 年から International Observership 留学制度事業を行い、若い肝胆膵外科医が海外の施設（主にアメリカ）で学べるよう 1 人あたり 300 万円を支援している。また、アウトリーチ活動として 2015 年からアジアの発展途上国からの留学生を受け入れ、日本の施設で学べるよう支援している。

・本学会は、2012 年からグローバル化を目指し、段階的に学術集会における英語によるセッションを増やし、海外からの招待者による発表を増やした。2017 年以降本学会学術集会で使用する言語はほぼ 100% 英語である（倫理など日本語での発表が効率的となる内容のみ日本語）。結果、年々海外からの参加者が増加している。

**c. 活動からもたらされる社会的な意義**

予後が不良で危険性の高い術式が多い肝胆膵の高難度手術をより安全に、そして全国津々浦々で実施できるようにという『患者ファースト』の理念のもと、本学会は 2008 年に高度技能専門医制度を発足させた。

2011 年に肝胆膵外科高度技能専門医の第一期生が誕生し、本年（2020 年）までに 359 名の肝胆膵外科高度技能専門医、529 名の肝胆膵外科高度技能指導医、さらに 262 の高度技能専門医修練施設が認定されている。また、本制度では、毎年高度技能専門医修練施設における手術死亡率を学会に報告することを義務付けており、その結果、手術死亡率は年々低下し、良好な術後成績になっている。例えば最も一般的な高難度手術である膵頭十二指腸切除は、修練施設で本邦の約 6 割の手術が行われており、その術後死亡率はその他の施設に比べて有意に低く、国民に安全な手術を提供する確固たる基盤となっている。

#### d.学会運営上留意している点

医療の安全と質の向上、Next Generation Project (NGP)を通じた若手の育成、女性の活躍（ダイバーシティ）の推進、国際化

#### II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

- ・日本胆道学会と連携し、外科・内科の両方の側面を考慮した NCD 胆道癌登録事業を発展させ、今後、同データを利用した胆道癌に関する研究を実施し、今後の胆道癌治療の発展に貢献する。
- ・大腸癌研究会と連携し、大腸癌肝転移データベース (EDC) システムを構築し、今後、同データを基に転移性肝がんに関する研究を実施し、今後の転移性肝がん治療の発展に貢献する。。
- ・日本集中治療医学会と連携し、高侵襲手術や重症合併症症例の周術期管理を行う集中治療室の機能と、同時に術後合併症に対する早期発見・治療の役割を担う RRS の機能に注目し、手術死亡率および FTR との関連性について鍵となる施設因子を明らかにするため共同研究を行う。